

2020 4/14

No.2112

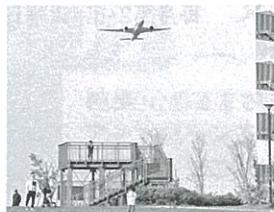
毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



川崎市臨海部や東京都心の上空を通過する羽田空港の新たなルートで3日、初めての飛行が確認された。ごう音とともに次々と低空で飛び去る巨大な機影に、地元住民らは眉をひそめた。



contents

視点点描	3
政権の幕が下りる時	
五輪	4
五輪延期の追加費用抑制を コロナ脅威の中で課題山積	
地域経済	8
住民と支える地域の移動手段 福島県伊達市の支え合い交通	
くらし2020	10
育休復帰、不安の春 影響懸念で延長も	
異説通説	12
納得性ある感染症対策を	
アジアの風	13
山谷の旅館もコロナに悲鳴	
企業最前線	14
進むガス・水道のスマート検針 電気に続き事業化へ取り組み加速	
風人来人	16
個人の意思尊重かメダルか	
NNAアジア経済リポート	17
神奈川景気データファイル 会員コーナー	18
神奈川景気データファイル	19

事務局だより

22日に開催を予定しておりました4月の定例講演会「社会課題解決型の企業」(講師:池森賢二・株式会社ファンケル名誉相談役 ファウンダー)は、新型コロナウイルスの感染拡大による安全への影響を考慮し延期といたしました。新たな開催日は決定次第お知らせいたします。

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局☎045(226) 2121。

視点

点描



政権の幕が下りる時

中曾根康弘元首相の訃報に触れた昨年11月末、かつて取材した時の姿を思い返した。

島嶼首秘書官、塙川正十郎財務相、鳩山由紀夫民主党代表らを連れ、最終回が中曾根氏だった。

大統領的首相、日米基軸重視、國鉄民営化、靖国参拝…。小泉氏と類似点も多かった。國のかじ取りに苦悩したであろう首相経験者間の深層を知る柳井俊二駐米大使、官僚トップとして首相5人に仕えた古川貞二郎官房副長官、飯

参秘書に申し込み、快諾を得た。

からか、近年の一部保守による歴史修正主義には苦言も呈していた。南方の船上で間近に砲撃を受け、部下を亡くした経験を持つ首相は中曾根氏くらいだろう。

小泉氏については、日米同盟強化を称賛しつつ、中韓首脳外交にも心血を注いだ自身と比べながらも、アジア軽視を批判。郵政解散には「議会制民主主義の点で反則。歴

事務所。書や写真が並んだ広い応接室に秘書も付けず1人で現れた。米寿を迎えていたが、質問に理路整然と答え、無駄が無かつた。「取材で話す言葉が加筆修正なしで記事になる」。上毛新聞記者が言う通りの頭脳明晰さを感じた。

東京帝國大卒、内務省入省後に海軍主計将校となり、終戦。自主憲法論者。「軍国主義」「極右」などの批判もあるが、戦争の実体験

民的支支持を保つたまま終えた戦後の首相は中曾根氏だけ。同様の中曾根氏の心境をどう想像するか」と聞いた時だった。「間もなく芝居が終わり、幕が下りる。小泉君は役者として跳ねて踊つて、十分満足だろうね」と愉快そうだった。

ほとんどの首相は失政や不祥事で政権運営が行き詰まり、中には自らのスキンシップで火だるまになつて去る。国民にそっぽを向かれない方がむしろまれである。

さて、安倍晋三首相も来秋に総裁任期満了を迎える。数々の疑惑を抱えながら、中曾根、小泉両氏の在任記録を抜き、歴代最長を更新中だ。今は何より国家的危機であるコロナ禍への対応である。政権の幕が下りる時、こちらの首相はどうなさいに至るのだろうか。

(神奈川新聞社編成部長)

高本 雅通